



協会ニュース

第16号

平成15年1月20日発行

編集発行人/志村 肇 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL (03) 3476-5721 FAX (03) 5489-7822
[ホームページURL] <http://www7.ocn.ne.jp/rta/>

年頭にあたって

岩盤削孔技術協会会長

三谷 健



明けましておめでとうございます。

当協会が大口径岩盤削孔研究会として発足したのは、平成元年11月でした。その後、名称を岩盤削孔技術協会と変え、研究会が発足した平成元年から数えて、今年には15周年になります。その間、厳しい経済状況下にあっても、会員皆様のご努力によって当協会も着々と実績をあげております。ひとえに会員皆様の協力のおかげと感謝いたしております。

本年は、昨年にもまして経済状況は厳しくなることとされます。経済産業省の調べでは、企業の経営課題で、建設業・製造業ともに経営戦略として経営革新型対応(工法・製品の低コスト化、高付加価値工法・製品開発への取り組み、研究開発活動への取り組み、ITの活用)をとった企業の売上が良好となっております。

ここで一番踏ん張って、この困難を乗り越ければ、必ずや明るい未来の光が見えてくるはずです。

協会もできるだけ経費を切りつめて、会員の皆さんと協力して、地道ではありますが、実のある仕事に集中していくつもりです。

積算資料の提供については、(社)日本建設機械化協会殿における国土交通省・関係公団・関係業界の方々による「大口径岩盤削孔技術委員会」で、オーガ掘削工法・ケーシング回転掘削工法・ロータリー掘削工法・パーカッション掘削工法の4工法について、(社)日本建設機械化協会殿より「大口径岩盤削孔工法の積算」を発刊していただいております。

岩盤分類の研究については、現在の岩盤削孔のための岩盤

分類は、主に1軸圧縮強度を指標としておりますが、硬岩と判定される岩盤の領域が非常に広く、所定の掘削時間で掘削できない場合が多々あります。

このような状況に鑑み、学識経験者および発注官庁の専門の方々による「削孔を対象とした岩盤分類検討委員会」(委員長・西松裕一東大名誉教授)で統一された岩盤分類について検討を行い、「削孔を対象とした岩盤分類報告書」のとりまとめを行いました。

大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料の発刊については、オーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の概要、掘削工法・機械一覧の技術資料のとりまとめを行い、発刊いたしました。

リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料の作成については、アタッチメントおよびツールの迅速な交換により、あらゆる地質に対応できるリーダ式大口径多機能ケーシング回転掘削工法の資料のとりまとめを行い、発刊いたしました。

会員施工会社施工実績調査のまとめについては、昨年度に引き続き4工法の施工実績調査と分析を行って発刊いたします。

工法紹介ビデオについては、より多くの技術者に削孔技術の正しい知識を修得していただくため、「岩盤と削孔特性」「削孔技術」を内容としたビデオ『岩盤を掘る』の制作を行いました。

ホームページの開設については、協会のホームページが完成し、協会の情報および会員会社の情報を、国内はもとより海外にも提供しております。また、協会のホームページのリンクによって、会員会社のホームページを瞬時に参照することもできます。アクロバットリーダーの利用により、協会ニュースなどの多量の情報を得ることもできます。

社会環境の厳しい中であって、協会は堅実に力強く一歩一歩歩んでいます。今年こそは、みんなで良い年にしましょう。

委員会活動報告

1. 運営委員会 4回 (継続)

平成14年4月22日～平成14年11月21日

- (1)平成13年4月から平成14年3月までの4工法施工実績表の作成、発行
- (2)「多機能リーダ式ケーシング回転掘削工法の積算資料」の審議
- (3)協会ニュースの審議
- (4)ホームページの審議

(5)見学会の審議、開催

(6)工法PRの審議

(7)総会の開催、運営

(8)予算の審議

2. リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料分科会 6回

平成14年4月8日～平成14年11月11日

- (1)「多機能リーダ式ケーシング回転掘削工法の積算資料」を作成

3. 「協会ニュース」編集分科会 2回

平成14年6月12日、10月18日